

9/10/06 最初の首脳外交として大成功

中嶋嶺雄・国際教養大学長 共同発表文書で政治と経済双方を太いパイプにすべきだとの認識を表明し、日本の国連安保理常任理事国入りに否定的だった中国が安保理改革に賛成したことは大きな成果だ。歴史共同研究体制を作ることも歓迎すべきだ。靖国問題でも、中国側からA級戦犯問題や参拝自粛への直接的な言及がなく、安倍首相も今後について言質を与えず「靖国を外交課題にすべきでない」という主張を通した。最初の首脳外交として大成功だ。



江沢民前国家主席ら上海閥と、胡錦濤主席らとの激しい権力闘争の中で、中国内部でも靖国問題をカードとする従来外交の転換が求められていた。北朝鮮の核実験表明も交渉しやすい環境を導き、小泉純一郎前首相が靖国で一貫した姿勢を貫いたことも安倍首相にフリーハンドを与えた。

核実験を強行すれば、国際社会全体に対する脅威として絶対に容認できない。実験阻止に向けて日中が協力する

北朝鮮

研究に同意する

北朝鮮が核実験を拒む中国として働き出す。拉致問題解決に向けていく



8日、北京の人民大会堂前で温家宝首相（左）と歓迎式典に臨む安倍晋三首相＝ロイター